

・・・雨でも休まず、284, 285回・・・

### 「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・定例活動1：6月 6日（第一日曜日）；小原本陣の森、森林整備活動、担い手育成、技術向上。「持続的森林経営：森林地団地化・集約施業」を目指す。弁当持参、参加費：400円
  - ・定例活動2：6月20日（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動、主食・自分のお椀・箸、飲料水。参加費400円
  - ・通常総会：6月20日、定例活動終了後、午後4時～、相模湖交流センター  
\*総会后、館内のル・ボンで懇親会、男性2000円、女性1500円、学生500円。
- ・・
- \*注意：初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、汚れても良い服装着替え、滑らない靴 成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証 飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸・何か美味しいものを準備する)
  - \*注意：危険管理・救急体制・森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

### 空気・水の供給源・・・森林をどう守るか。

少子高齢化時代に向かって、40年後の2050年には我が国人口は8千9百万人弱になると予想されている。30%減である。計算上は、住宅着工件数も3割減。何か工夫をしなければならない。建材が売れなくなれば更に森に手が入らなくなる。

建材に替わる、木材消費はないか。一方、化石燃料の枯渇は秒読みに入っている。太陽エネルギーを蓄えた燃料として「Wood BA：木質バイオマスエネルギー利用」はどうか。万物に不可欠の「空気や水の源：森林」は、何としても守らねばならない。そこで当会の「緑のダムネットワーク」の知恵を借りて「内陸・グリーンハブシティ・相模原：WBEシステム」の構築を考えた。そしたら、ひよんなことから三井物産と事と協働することとなった。

食糧危機も云われている。先ず、WBA活用として食糧工場（温室栽培）はどうだろう。地域冷暖房もある。火力発電を東電に相談してみよう。木からは、BTL(木由来の軽油)が可能だ。リグニンの用途も広い。タイヤや建材の強化剤にも成る。炭は、特殊加工で有害ガスの吸着分解剤になるが、これからの宇宙の時代を迎えて電磁波防御剤にもなる。何にMO増して、空気や水を安定供給してくれる森林に経済が循環する仕組みづくりが重要課題だ。太陽光発電、風力発電、水素自動車などが脚光を浴びているが、地道に森に手を入れる事が万物の生き延びる途だと云うのが当会の主張だ。世界の商社三井物産が、森林再生を一緒に行動しようと手を差し伸べてくれた。そんな時代がNPOにもやってきた。今や、共々“協働する”と云うのではなく、我々一般市民も行政も全ての人々が“協創する関係”で森を守ろうではないかと云う提案である。

陽も長くなり、体を動かすと汗ばむ季節となってきました。

活動前に熱中症や蜂に注意しようという確認が行われることから、夏が近づいてきているのだと感じます。

今回の活動内容は、一日を通して中里さんの山にて林床の整備を行いました。主に、斜面に横たわっている木を切り株などにかけて、等高線に並行に並べていく土留め作りを行いました。土留めには、斜面の土壌が流れるのを防ぐ役割があります。

月に1度の活動で、林床整備を行っています。

最近では斜面に横たわっている木が少なくなってきていて、どこで作業しようか迷ってしまうほどです。少し物足りなさを感じることもありますが、コツコツと活動してきた成果を実感することができます。

次回の活動からは作業場所を変えて取り組んでいきますが、継続的に活動していくことで少しでも森を良い状態にしていけたらと思っています。



これからも真剣に楽しく取り組んでいきたいと思っていますので、どうぞよろしく  
お願いいたします。

---

峻嶮な「小原の本陣の森」での作業が“少し物足りなさを感じた”とは恐れ入りました。学生たちも森にう慣れて余裕ができてきたんですね。だが油断大敵！“どんなはずみで事故に繋がらない”とも限りませんからね（石村記）。

子

里山交流・国際 FSC の森林活動

“新緑、鳥のさえずり、森仲間の交流、輝き！”

萌える若葉、サイコーの季節。

森には今月、“森は生命の源”と云う想いを共有する五つのグループが入っている：緑のダム 21 名、望星の森 17 名、学生連合フォレスト 27 名、生命の森宣言 7 名、みんなの森 4 名、計 76 名。

久々、小原の出先工房から古巣に戻った木工班は、オリジナルベンチの大量注文で“リキ”が入っている。生命の森宣言の神山さんが木工班に初参加。森作業と違って、神山さんは沢山の工具の使い方を覚えるのが大変だった由。今月、体験学校のない斉藤学校長はベンチ作りの応援で、バッチリ。

森林班は、8月に来日する「中国青少年森林視察団：歓迎！ソーメン流し」の下準備。竹製のソーメン流し台は、その傾斜と流す水の量が難しい。流しテストが上手くいって、「では、試食会」とか言って本当のところ“試食会がお目当てだった様子”

大径木林を計画している 10 年前に間伐した「A 地区」には先月から“生命の森宣言”が入っているが今月は、A 地区ぐるり 1.5ha 境界線を縄張りしてみよう、森全体像を掌握してみようと藪に分け行っていた。

みんなの森に参加した斉藤エリ子ちゃん（小 1）は、忙しいお父さんの手を離れて逞しく一人遊びをしていた。ナタで竹割をしたが手が滑ってチクと薬指を切ったが泣くのを堪えてベソをかいていたのがいじらし。

「お花畑班」：繁茂するお花畑には、草刈りに挑戦する重装備の丸茂班長の雄姿があった。また、粘り強い女性陣のお陰で広いお花畑はトテモスッキリ、綺麗。



## 若柳嵐山での活動、ナイトカーニバル／4月18日(日)

Forest Nova☆ 麻布大学3年 金井孝平

4月18日の第3日曜日は若柳嵐山での定例活動でした。この日は、活動の後にナイトカーニバルという ForestNova☆の新しい企画を行うため、合計で27名もの学生が森にきてくれました。

定例活動では、経路作り、選木調査、嵐山散策、材降ろしの4つのグループに分かれ活動しました。活動はとても盛り上がりを見せ、この日取材に来ていただいた毎日新聞の方も大満足でした。また、この日の活動が5月4日の毎日新聞の緑の特集にも載りました。

定例活動が終わり、学生たちはここからナイトカーニバルの始まりです。ナイトカーニバルとは、「森に活動しに来ただけでは終わらせない！」をコンセプトに ForestNova☆がイベントで使っている自作の絵本を使っての、森の現状などを参加者に詳しく知ってもらう交流会イベントです。

私たちは普段学生たちを巻き込み、定例活動に多くの学生を呼んできました。しかし、活動に参加してくれた学生達に私たちは森林問題の現状を訴えることをしてきませんでした。私たちは活動に参加してもらって満足していました。

しかし、森林問題を解決するためには、多くの人に森林の現状、問題を知ってもらう必要があります。定例活動を通して森での作業の厳しさを知ってもらい、絵本を使っての問題提起という一連の流れを今回のナイトカーニバルで出来ました。参加者の方々から森林問題を何とかしたいという声や私たちも何かできないのか、という問いかけももらいました。

今後こういったイベントを行い、森にきてくれる人や森林問題に取り組む人たちが多くなればいいと思いました。

学生たちの活動は、とどまることを知らない発展をしています。毎日新聞は、全国紙一面全面を使って報道してくれました。九州からきている広石学生には、九州のおばあさんから「みたよ！」と電話があったそうです。おばあさん、懐かしく嬉しかったですよね（石村記）。





## 相模原市「さくら祭」

日時：4月3日（土）～4日（日）

場所：相模原市役所横・第2駐車場2F特別会場

参加者：白鳥、菅原、森本、内野（3日）、白木、昆野、瀬尾、土屋、中澤、吉無田（4日）

「さくら祭」は37回を数えるが、今年は相模原市が政令指定都市となったこともあり、満開のソメイヨシノの咲き競うなか大盛況の2日間。我々のブースの周りは「緑のダム北相模」をはじめ「北都留森林組合」「森と海の研究所」「学生連合・フォレストノバ」など15を越える森林関係の団体ばかりだ。「内陸・グリーンハブ都市を目指すー森林資源生産とと年をつなぐー」をスローガンに掲げ、どのブースも力の入った展示内容が印象的だった。

様子見を兼ねての初出店。当会はネイチャークラフト教室を開くこととなる。輪切りにしたクリの木に木の実、砂浜で拾い集めた貝殻、そしてスーパーで買った小豆と大豆（ちょっと反則？）を自由に配置して置物や写真立てを作る予定。ところで、森の催しになぜ貝が？材料不足を補う為の苦し紛れ？でも「森と海はつながっているでしょ」と勝手な理屈をつけ、さらには「森と海のコラボレーション」と銘打った看板を臆面も無く立てていざ開店。神奈川会の幡が春の微風になびいている。

開始時刻前から早くも子どもたちが詰めかけてきて、思い思いの作品を作り始める。意外なことに、子どもたちは貝殻にことのほか関心を示す。興味深そうな眼差しが実に可愛らしい。時々、無理難題を突きつけられることもあったが、そこはベテランのインストラクター、上手く注文をこなして小さなお客様に満足して戴いた様子。独創的な作品が次々に完成する。それにしても、来店者の多いことにはびっくりで、スタッフは休む間もない程の大忙し。材料がなくなってしまうのではないかと心配したほどである。この日の入店者は4時間で38名。今回は初参加ということもあり、不備な点多々あったが、もし来年以降も参加するとなればチームを組み、準備万端にして臨むべきと思う。急遽、駆けつけてくれた白鳥さんの竹笛や鋸の音楽で人を呼び込む手法はさすがであった。（内野記）



### さくら祭りに参加する理由

都市部の人々に森林を知ってもらうためだが今回は特に、相模原市が旧津久井4町を合併して政令特別市になって初めての祭りで、「森林に係る企業・団体の広報・宣伝の意味をレイアウト」にした。2日目は、気温の下がった曇天で、昨年よりやや少なめの入場者は5500人程度であったろうか。出展物を選んでレイアウトも趣旨に合うように整理したため。来場者は満遍なく会場を回遊してくれた。

## 三井物産との協創：相模原市に提案：報告 1

・ ・ 相模原市・内陸・グリーンハブ都市に向けて ・ ・

県のシンポで知り合った三井物産を 4 月に入り相模原市に紹介した。三井物産は「では一度、木質バイオマスエネルギーについてプレゼンしましょう」と 5 月 14 日三井物産他、当会関係者 6 名、相模原市・環境経済局関係者 5 名が参加した。

プレゼンは総括的なものであったため、相模原市側は、「もっと、具体的なものが欲しい」との要望であった。新生・相模原市側の変わっていこうと云う強い意志を感じた。これに応るためには当方の組織強化を進める。



\*規模の小さい時と比べて相手側が求めるレベルが高くなったように感ずる。

## 相模原市協働事業：林地が団地化・集約施業：報告 2

21 年度から相模原市と市民協働制度における協働制度提案制度が始まった。相模原市とは 3 ヶ年計画「林地団地化・集約施業」に取り組んでいる。里山は木の実・草の実・薪等、生活に密着していたから、森は細かく細分化されている。当会が今回取り組む森は、約 70 町歩の森だが、30 人ばかりの地主さんが入っており境界線は、小間切れになって複雑に取り組んでいる。

「団地化」と云うのは、この小間切れ状態を一つの団地に見立てて統合しようとする試みである。その目的は、70 ha あるこの全体で地形や植生を調べたうえで木を合理的に切り出す作業道を付けて、この森の経済性を高めようとする事だ。

技術も知識も経済的な裏付けもない森林 NPO が、こんな大それた試みに取り組むのは、いささか暴挙だとの誹りも受けたが、傍観すれば森は悪くなる一方。坐して死ぬより戦って死ぬ方を選んだと云うことだ。さて、1 年を経過してどうなったか。



約 5 町歩の協力協約の森が美しくなった。ボランティアが取り組んでいるのに放っておけないと大きな土地を持っている地主さんが自分で整備をするようになった。

次は「うちもやっておくれ」と云う人が 3 人あらわれている。合算する

と約40町歩の集約化が進んだといえる。想いも、掛けない結果となった。何せ、持ち主も境界線も分からない森が、徐々にその姿を現しかけている。林相や植生・地形から、凡そこの辺りが怪しいと思う所に、古い目印の石杭等が打ち込まれている。その石杭の方向をたどってみると新たな目印が現れる。時には地蔵さんがあったりする。森は黙っているが、話しかければ応えてくれる。イノシシの水場もあった。背中の中虫を取るためのコスリ石もある。

○ 相模原市の公開プレゼンに結果・・・(A,B,C,D: 4点方式)

項目	評価	備考
A パートナーシップの原則で行動したか	・B	目標に向けて双方協力努力した
B お互いに関係性 報告・連絡・相談	・B	森は公益事業であると自覚した
C 事業の妥当性・成果	・A	市民+行政の協働は不可欠だ
D 協働の必要性・効果	・B	行政の協力あってこそなる。
.....		
F 協働にポイント：改善したいこと		*報告・連絡・相談を密に(双方共)
G 後輩に向けてアドバイス		*熱い心・使命と、冷めた頭・経済
H 互いに期待すること		*役割分担、互いの立場を理解する
.....		

全国植樹祭・神奈川大会：報告3（5月23日・日）



大会宣言  
 森づくり活動実践  
 環境教育の充実  
 次世代を担う青少年育成

両陛下ご臨席の下小雨降る寒い日だったが、厳粛におごそかに成功裡に終了した。



### 第3回：森づくりモノづくりコンテスト：表彰式、4月29日（祭・金）

澁刺と、伸び伸び、と全国から229点の応募 主催：間伐材有効利用促進実行委員会

全国から募集する当間伐材活用コンテストは3回目を重ねた。

毎回、300点近く集まる応募者のレベルも高く同コンテストは、最早、この種のコンテストでは権威あるエコ・コンテになっている。

特徴は、若い年齢層にチャンスを与えると云う趣旨に徹底しており、想いも掛けないアイデアに最高賞を与えると云う試みだ。



今回は、宮上小4年の海野智哉君に与えられた。名は「木の扇風機」。縁側でお昼寝をしていると、そよ風が「木の扇風機」を回して涼しい風を回してくれて、幸せな夢を送ってくれるとか。

「森づくりモノづくり・コンテスト」受賞者の皆さんの、この晴れやかな笑顔を見てください。



全ての悩みから解放させた笑顔です。森は、そんな優しさを教えてくれるのです。

NPO 緑のダム “の活動に参加すればそんな幸せに巡り合える事が出来ます。

.....

- ・活動のモットー : 急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・・  
そして、沢山の参加で森は、良くなる。(台風の日も勉強会開催。13年間、一日も休まず“継続は力”。)
- ・名 称 : 特定非営利活動法人 緑のダム北相模
- ・事 務 局 : 154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9  
発行人 : NPO 緑のダム北相模 運営委員会 03-3411-1636
- ・URL : <http://www.midorinodam.jp> E-mail: [midorinodam@.rk9.so-net.jp](mailto:midorinodam@.rk9.so-net.jp)
- ・協働団体 : セブン-イレブンみどりの基金、相模原市(市民協働推進課)、東海大付属・望星高校、生命の森宣言・東京
- ・ご支援の団体 : WWF/JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県協同組合、JFEメカニカル、東急コミニテイ、三井物産CSR室